

同窓会総会報告

沼津高専同窓会48年度総会は、3月16日午後1時より、母校学寮食堂において開催されました。

小雨の降る中を、同窓会員百数十名、母校からは昨年10月静大工学部より着任されました樋口学校長はじめ、多数の教職員の方々が御出席下さいまして、総勢2百余名におよぶ盛会でした。

ただ前年度総会に比べまして、出席下さった方々の人数が少なかったことは、小雨という天候と、会社の決算期ということが重なった為であり、今後の総会開催日時について、同窓会本部として一考を要する点であると痛感致しました。

さて、総会は樋口学校長の挨拶にはじまり、鞠子会長(M5)挨拶、議長団選出と続きました。議長団には、議長木ノ内君(M1)、副議長白井君(M1)、書記坂井君(M6)が選出され、議事に入っていました。

まず、副会長中村君(C2)より48年度業務報告がなされ、次に事務長水上君(E5)から48年度会計報告がありました。

47年度収支決算報告

収 入	前年度繰越	244,221
	会費、利息	405,892
	寄金、祝儀	103,000
	7期生会費	516,000
	小計	1,269,113
支 出	会議費、通信費	208,710
	総会費等	146,545
	祝儀等	142,400
	小計	497,655
48年度へ繰越し		771,458

48年度収支決算報告

収 入	前年度繰越	771,458
	会費、利息	154,841
	8期生会費	648,000
	小計	1,574,299
支 出	会議費、通信費	71,810
	総会費等	115,840
	祝儀等	100,000
	小計	287,650
49年度へ繰越し		1,286,649



ついで、47、48年度の2カ年の任期を終了する会長、副会長、事務長にかわる49、50年度の同窓会三役の選出に入りました。三役については、理事会のほうで、推選致しました次の3名の方が満場一致で承認されました。会長伊達忠昭君(M1)、副会長島村俊君(M1)、事務長跡部恵一朗君(M1)、このあと新三役の方の簡単な挨拶があり、総会議事を全て終了致しました。

引き続き懇親会に入っていました。

教職員の方々の挨拶に続き、自称芸能界No.1の田中昌一君(E1)の音頭で一同乾杯、懇親、歓談に入っていました。在学生時代の悪友との再会、お世話になった教職員の方々との歓談、なかには御夫婦で出席下さった会員の方も華いだムードのなかで懇親会は進行していきました。途中木戸先生が、3月31日付をもって定年退官されるということでありましたので、同窓会として金一封を送り拍手をもって、これからの御健康、活躍を願ってお送りしました。

さて、懇親会も進み恒例になりました校歌斉唱により感慨を深め、跡部君(M1)の音頭で万才三唱をして、めでたく会を閉じました。そのあと多くの方が古巣沼津のネオン街に、二次会の為に散っていきました。

尚、総会を開催するにあたり、沼津高専教職員の方々の労をいとおねわぬご協力がありましたことを報告し、ここに同窓会として深く感謝する次第であります。

鞠子記

伊達忠昭

同窓会長 伊達忠昭

私達は、日常生活をしている上に於て多くの友達と付き合っています。少年時代の友、学生時代の友、職場の友、近隣の友、等。これらの友の中で私は学生時代の友が最も好きであります。



「オイ跡部」「ナンダ伊達」と呼びずてで気楽に話ができます。同じ教育を受けた事で、何か考え方に相通するものがあり、それでいて、それぞれ異った環境で育ち、異った職場で働いている為、話している内に、教えられる事、励まされる事が随分あります。

又、同窓生は全国各地に散って働いています。話し合い、協力し合う事のできる友が各地にいるという事は本当に心強い事です。将来、皆さんはそれぞれ各自の仕事に於いて専門家になるでしょう。自分の知らない知識と経験を身につけた友が全国にできる事になります。巾広い技術者となる為に、これらの同窓生との深いつながりは非常に有益なものとなるでしょう。そういう意味で私は同窓生との付き合いをもっと深くしたいと考えています。

今回、会長に就任するに当り、私は同窓生一人一人がお互いに自分の友をもっと大事にし、交流を深めていくようお願い、これに協力できる同窓会を作っていきたいと考えています。

具体的には先ず、同窓会の組織及び財政基盤を確立して次代の役員に引き継ぎたいと考えています。

財政基盤を確立する為には同窓会を支えている同窓生皆さんの協力が必要です。現状では同窓会の財政は3、4年で破綻する事は目に見えていますので、これを建て直す対策をとりたいと考えています。

次に会員相互の交流を深める為、各地に支部の結成を推進したいと思えます。

会員総数が千名を越えた現在、全体の行事としては総会しかできませんので、活動を盛んにする為には各地区単位に動きのとりやすい支部を作るのが最も良い方法であると思えます。

私達役員も働きかけ、協力はしますが作るのは各地区の皆さんです。

同窓生の皆さん！協力して活発な沼津高専同窓会を作り、お互いに切磋琢磨して優れた技術者となるよう努力しましょう。

同窓会の皆様へ



同窓会名誉会長 樋口 泉

1 はじめに自己紹介をします。昭和7年に旧制二高卒、昭和10年東北大学理学部化学科卒、続いて同大に助手、講師、助教授、教授として、昭和38年から、静大工学部合成化学科教授として、合計38年間勤めて定年になりました。略歴の示すように理学者として出発し、工学部に移ってから工業物理化学講座担当でしたから、どちらかという基礎的な研究に終始したわけです。青年時代は、東洋人も世界的に平等に扱われるようにしましょう。そのためには万国共通な自然科学の研究において、一人前の研究成果を挙げることが目標であったし、敗戦後は科学技術の研究によって、先ず国民を飢餓から解放することに使命を感じたりした。昭和31年米国から帰ってからは教授になったので、個人的には大学における教育と研究とを両立させること、教授としては、ますます政治運動化してきた学生生活の中で、大学を、まともな研究と教育の場にするにはどうしたらよいかを考えたり、対処する立場になり、いま振り返ってみると、この間は研究よりも、そちらに多くの精力を費したような結果になっているように思う。はからずも高専中の名門校である本校に赴任し、20年ぶりて学校らしい学校に廻りついた思いであり、先人の努力のあとを引継いで、青年学徒の育成に人生最後の御奉公をしたいと思っている次第です。

2 ここ数年来、日本工業教育協会の一つの課題に技術者の継続教育の問題があります。これも米国で盛んになったことであるが、職場に出た技術者が積極的に勉強しないと、数年ないし、10数年で能力が著しく低下してしまうから、学校卒業後も継続教育を受けるような、適当な制度、機関を考究しようというのが主眼のようであります。留学中米国で聞いた話ですが、戦前、米国の技術教育は即物的で職場で直ぐ役立つ教育をしていたためか、さきの大戦中に、既成の技術者は、新企画にはあまり役立たず、大学の研究者、理学者が大きな貢献をした。これが反省の動機になって戦後は基礎的教育に力を入れるようになったとのことであつた。しかし教育の実態は、1つの理念だけで直ぐ変わるものではないし、また戦後の急速な技術の大変革に伴ない継続教育の必要性が叫ばれ

るのかと思う。日本では一部に社内教育、または社外の機関による継続教育が行なわれているが、まだそれほど普及しているとは云われない。

もともと日本の高等教育では、基礎教育が重視されているから、卒業後は各自がそれぞれの職場で、具体的な勉強をして、真の専門家になることが期待されている。この点でも米国の実態とは異なるように思われる。そこで大いに強調したいことは、新卒の諸君は勿論、漸次監理的仕事にたずさわようになる諸君もともに、職場の実態に即応して、それぞれ専門の勉強に努めて頂きたいということであります。

新同窓会名誉会長の紹介

樋口先生と初めて会ったのは柳下君（一期機械卒、現在母校講師）の結婚式場でした。にやけ、でれでれした本人を息子の様な感じで見守っていたのが印象的でした。とかく研究者に有りがちな、がんこで何かに凝り固まったと言う事は一切無く、気さくに会話ができました。奥様が又おちついた美しい方で、仲人として正装しておられると、天皇皇后両陛下と言う感じがびつたりです。

同窓会に協力していただいたお礼の意味で、先日三役そろって樋口先生を学校にたずねた所、自分の母校での同窓会の現状や、色々なアドバイスをしていただきました。同窓会の顧問を率先して決めていただいた事には本当に感謝致します。世間話も楽しく、今後の希望などを折りまぜて、つい時間オーバーとなつてしまいました。別に昼のウナ重が、おいしかったからべたべたしているわけではありません。

くどくど説明するより、一度母校に立ち寄って校長室を訪問してもらった方が良いと思いますので、最後に先生のやって来られた研究のさわり（浜松工業会誌より抜萃）と略歴を掲載して終ります。

『吸着現象、多孔体、触媒などに関する御研究に注がれた先生の絶えざる情熱は多くの優れた成果に見ることが出来ます。樋口先生は吸着に関する研究の先駆者の一人であられて、その優れた業績は国の内外ともに高く評価されております。とくに“修正毛管凝縮理論”なる独自の吸着理論を提出され、吸着や分散体の化学の部門に大きく貢献されるときにも、この理論にもとずく、独創的な実験方法により、多孔体における微粉体充てん構造、固体触媒における多孔性効果などの広範な応用的研究にまで発展させてこられております。またその業績によって昭和43年には粉体冶金協会賞を受賞されておられます。

真摯で篤実なお人柄を通して、樋口先生が教育にそして研究に果された功績の大きさは本当にはかり知れないものがあるということができましよう。』 (島村記)

略 歴

樋口 泉	明治42年6月22日生
昭和10年3月	東北帝国大学理学部化学教室卒業
昭和16年7月26日	理学博士（東北大学）
昭和10年3月31日	東北帝国大学理学部助手
昭和17年9月11日	” ” 助教授
昭和28年4月1日	東北大学理学部助教授
昭和29年4月4日	アメリカ合衆国へ出張（昭31. 8. 20まで）
昭和31年4月1日	東北大学第一教養部教授
昭和38年4月1日	静岡大学工学部教授
昭和39年2月10日	” 評議員（昭47. 8. 10まで）
昭和40年3月31日	” 工学部長（昭44. 3. 30まで）
昭和48年4月1日	停年退職
昭和48年4月2日	静岡大学名誉教授
昭和48年10月16日	沼津工業高等専門学校長

木下 一 敬 啓

昭和49年度 同窓会役員名

(任期S49. 4. 1 ~ S51. 3. 31)

名誉会長	校長 樋口 泉	理事 E6	大城 清
会長	M1 伊達 忠昭	” E7	〇 高本 豊
副会長	M1 島村 俊	” E8	〇 後藤 秀雄
事務長	M1 跡部 恵一朗	” E8	〇 長谷川 親正
理事	M1 〇 木ノ内 倫弘	” C1	〇 大沢 幸一
	” M2 〇 細井 道泰	” C2	〇 中村 誠一
	” M3 〇 大地 喜久	” C3	〇 納谷 明
	” M3 〇 望月 俊和	” C4	〇 白鳥 修巳
	” M4 〇 風間 隆太郎	” C4	〇 山田 久義
	” M5 〇 鞠子 誠	” M7	〇 〇 関野 賢司
	” M5 〇 堀井 常雄	監事 M1	〇 〇 奥田 温一
	” M6 〇 坂井 徳尚	” E4	〇 〇 高橋 徹
	” M6 〇 石黒 俊一	顧問 一般教官	〇 〇 市川 良輔
	” M7 〇 大庭 公一	” M 教官	〇 〇 藤野 紫郎
” M7 〇 杉山 高一	” M 教官	〇 〇 柳下 福蔵	
” M8 〇 石橋 正之	” E 教官	〇 〇 柳瀬 晴海	
” M8 〇 近藤 博明	” C 教官	〇 〇 川松 俊治	
” E3 〇 小池 洋三	” 事務部長	〇 〇 小松 克滋	
” E4 〇 加藤 昌裕	” 学生課長	〇 〇 高橋 実巳	
” E5 〇 小川 吉晴	” 教務係長	〇 〇 鈴木 靖巳	
” E5 〇 水上 重徳			

故 土井前校長を偲ぼう



同窓会顧問教官 柳下福蔵
機械工学科一期卒業生

我々沼津高専一期生が三年生の秋、名古屋大学から沼津高専二代目の校長として赴任なされましたのが、今は亡き土井静雄先生でした。土井先生が赴任直後、はじめて学生に講話されたとき、その話のなかに、先生が若かった頃、旅順で生活された当時のことを思い出しながら、自分自身にいかにも納得させるかのように、「満州へ渡ってまず不思議に思ったのは、日本とちがって河が少ないということでした。なぜだと思いますか？……満州には山が少ないからですね……」というような一節があったのを、今でもありありと記憶しております。というのもこの話しの感じから、私は土井先生という方が何よりも深く真理を探究されてきた人だ、という第一印象をきわめて強くしたからだったと思います。

微力ながら私が静大工学部の卒業研究、また大学院を通して行ってまいりました研究分野が、土井先生の生涯の研究分野と類を同じくしていたことは思いもかけないことでした。ですから、私は土井先生の著書、論文等を拝読する機会を得、先生のおの道における偉大さを知らされ、そして時には、まさしく尊敬の念の断えざる思いを深めたこともしばしばのことでした。そして文字通りその業績が今でも日本はおろか、広く海外にまで高く評価されているのを、身をもって知らされたのでした。さてまた、先生が沼津高専校長着任後は“質実剛健”をモットーとされ、学校の管理、運営に精励され、充実発展に粉砕砕身の実を挙げられたことも私達卒業生の尊敬と感謝に値することとして長く顕彰されるだろうことは、周知のことと思います。つまりこれは、緻密な計画をたて、それを一つ一つ着実に実行していかれた先生の気風に、我々卒業生はエンジニアとして切実に学ぶところが多大だったということでもあろうかと思えます。

そして惜しくもご退任前一、二年は健康を損なわれましたが、それでも敢然と闘病しつつ任務を遂行なされたのでした。そこに、先生の生涯を通しての教育という仕事に対する信念と強靱な気力を実感させずにはおかないものがあつたと思えます。しかるに、退任後、僅か数ヶ月余で他界されましたことは、返す

返すも残念でならないことですが、天寿のしからしむるところ、もはや嘆いてばかりもいられませんので、ただ私たちはいまここにこえりみて、この沼津高専の幼年期に着任され、我が沼津高専を立派な青年に育てあげてくださった故土井校長の功績と恩恵とにあらためて深く感謝の気持ちを表わしたく思い、とりあえず会報がわりに一筆したわけです。会員諸兄、御覧察下さい。

尚、先生は圓覚院静養徳翁居士と改名され、名古屋市平和公園内の建中寺墓所に安らかに眠っておられます。



ありし日の土井校長

高専大会報告

去る7月13、14日。三重県鈴鹿にて、第12回東海地区高専大会が、開催された。

我が母校の学生も健闘し、柔道部は全国大会への権利を得、又サッカーは、賜杯を手にした。

その他の成績は下記の如くです。

総 合 成 績

- ◆サッカー部 優勝
- ◆柔道部 団体 全国予選 優勝、勝抜3位
個人 軽量級 優勝 武 初段 3位 式倉初段
中量級 3位 中田初段
重量級 2位 大須賀初段
- ◆卓球部 個人(シングルス) 優勝 大須賀
- ◆陸上競技部 2位
- ◆水泳部 2位
- ◆軟式庭球部 団体 3位
- ◆剣道部 団体勝抜 3位

(各部の先輩は、後輩激励の為 来校されよ!!)



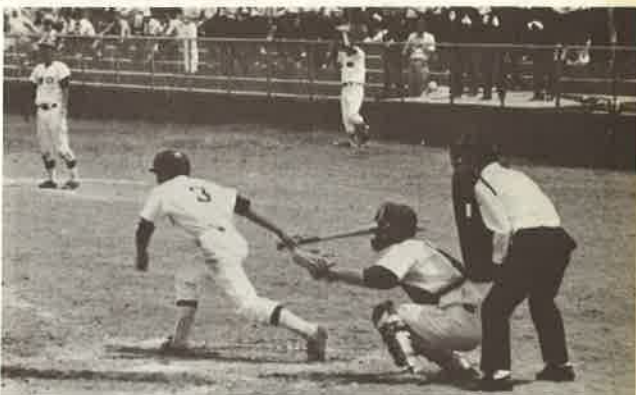
あざやかな逆転・サヨナラ勝ち!!

全国高校野球選手権静岡大会初戦を飾る

長雨にたたられた後の真夏の太陽が照りつける沼津球場で、我が沼津高専は第一試合に出場、1点差で迎えた9回裏、安打の走者2人を置いて2死から塚本が左中間に深々と三塁打を放って逆転、沼津学園に劇的なサヨナラ勝ちをした。部員13名というハンデーをはね返し、一丸となって粘り勝ちしたのである。なお大会参加で初めて2回戦に出場と言う立派な成績を残した。続く2回戦目はやはり、1点差2死満塁という好機を迎えたが、適時打が出ず、おしくも敗れた。来年はきっと……。



1 回 戦	
沼津学園	1 0 1 0 0 1 0 0 0 3
沼津高専	0 0 1 0 1 0 0 0 2 4
2 回 戦	
御殿場南	0 0 0 1 0 0 1 1 0 3
沼津高専	0 0 0 0 0 1 0 0 1 2



同窓会だよりへの投稿を望む

同窓会だよりも第一号より早くも十年を経て一段と成長してまいりました。ただ今までのたよりは、あくまで本部の活動の報告、同窓会総会の報告と非常に味気ないものでありました。勿論これが重要ではあります。しかし、同窓生諸兄の華麗なる詩才、目を見張るほどのバイタリティと、想い出の深いものばかりではあります。また“優秀な技術者となって世の期待に応え”ている諸兄の近況を、是非同窓生に知らせたいと思います。我々編集委員は、ほんのささいな出来事でも、非常に楽しみに待っております。同窓会だよりを愉快的、親しみのわくものにするためにも、是非宜しくお願い致します。

God Father を求む!!

今まで“同窓会だより”の名称を使ってきましたが、学生会の会誌は“礎”の愛称があり、新聞は“こばやし”の愛称がありました。おそらく、この名称をきいてなつかしく思われる諸兄も多いことと思います。そろそろ、この同窓会だよりも、沼津高専としての、カラーを生かした愛称が見つからないかと期待しております。どなたか GOD FATHER になって下さいませんか。思いつきでも結構です。本部まで送って下さい。

昭和49年度同窓会総会予告

今秋、恒例の同窓会総会を開催します。日時は高専祭の期間中に繰り入れるつもりですが、高専祭の日程が決まってませんので10月下旬~11月上旬としか発表できません。決定しだい、開催通知をお送りします。役員一同はりきってます。なお、高専祭にては各部の後輩の活躍をぜひ御覧になり、沼津高専の意気をおみせしたいと望んでおります。又総会にて出会った旧友とは、心楽しい一夜を過そうではありませんか。ぜひ多数の出席を望みペンをおきます。



現住所不明者の欄

同窓会はすべての沼津高専卒業生に総会の案内、同窓会だよりの発送、その他の連絡をとりたいと思っておりますが残念ながら下記の方は現住所不明につきそれらの連絡がとれておりません。

もし、これらの方々の現住所をご存知の方は同窓会までお知らせ下さい。

昭和42年 3月卒業生

- M 1 沖沢、小林、橘、長谷川(輔)、早川、松本、小木
- E 1 岩崎、草分、梅田、近藤(同)、佐藤、近藤(亮)、田口、平岡、村松

昭和43年 3月卒業生

- M 2 上野、大畑(一)、大畑(剛)、岡田、加藤(昌一)、加藤(昌弘) 久野、齋藤、小出(剛)、辰野、土屋、中島、村上、脇
- E 2 帯金、加藤、川村、近藤、谷岡、富山、中野、長谷川(同)

昭和44年 3月卒業生

- M 3 井出、小林、小池、白井、杉山、永井、中山(剛)、日向野、藤巻、松井
- E 3 井上、小沢、桑野、鈴木(剛)、三室、増田(剛)、吉野、米倉

昭和45年 3月卒業生

- M 4 青木、市川、岩崎、岩永、小池、水谷、鈴木(剛)、鈴木(剛) 杉山(剛)、疋田、望月、渡辺、湯山

- E 4 鈴木、美尾

昭和46年 3月卒業生

- M 5 飯高、大森、小笠原、小野、小林、富井、藤田、水野、山内、山口、森崎

- E 5 伊藤、近藤、佐藤、杉崎、中村、西里、水越、山川

- C 1 市川(剛)、稲勝、内田、鈴木、日向、関、村瀬

昭和47年 3月卒業生

- M 6 阿部、岩堀、勝間田、加藤(剛)、北川、北村、沢田、白鳥、田中、土屋、福田、三浦、三石、望月(剛)、山口、山下、由比藤

- E 6 大内、風間、佐野、塩川、日吉、望月(剛)、山田(剛)

- C 2 柏木、勝又、古性、萩原、望月

昭和48年 3月卒業生

- M 7 秋津、伊藤、島田、野末、早瀬、八木、山田、茂出木、山本(剛)

- E 7 佐藤(一)、佐藤(同)、鈴木(利)、高橋、鈴木(洋)、竹田、寺田、早村、萩原、星野、増田、葛野

- C 3 石田、内山、遠藤、高草、奈木、福井、藤谷、河合、坂田、田中

なお現在同窓生名簿を整理中ですが上記以外の同窓生でも勤務先、現住所に変更のあった時には必ず連絡下さることを願います。

また今年卒業された同窓生(M 8、E 8、C 4)はまだこちらまで卒業生名簿カードを返送されておられませんので現住所が決定次第お送り下さい。(中村記)

【連絡先】 〒 410 沼津市大岡3600
沼津高専学生課教ム係気付沼津高専同窓会
TEL 0559-21-2700

編 集 後 記

同窓会も役員が一新され、より大きな足跡を残すべく、第一歩を踏み出しました。昭和48年度は沼津高専としては非常な変動があり49年度はこの過渡現象もおさまり、やっと安定期を迎えようとしております。これからの編集は同窓生諸兄の投稿に基づいて行ないたいと思いますので宜しくお願い致します。